

インタビュー

「明日を拓く」

第239回

パチンコ産業にとって、最近特に重要視されているのが広報活動です。社会の厳しい見方、世間の誤解や偏見に対し、いままで対応の遅れが目立っていました。健全化推進機構の協力による一般紙2紙での依存問題全面広告が行われ、日遊協では日工組、日電協の団体加盟によるPR事業の強化に取り組み始めています。日遊協広報調査委員会委員長を務めている福山裕治氏が6月の総会で理事に就任しました。広報活動の現在と未来に対する見解を伺いました。

理事 広報調査委員会委員長

福山裕治氏

広報のあり方を熱心に語る福山裕治理事

「広報」で一番重要なことは 業界の窓口を 一つにすることです

執行役員の立場で
どの発言においても
責任の重さを感じる

——この度、日遊協の新しい理事
に就任されました。おめでとうご
ざいます。まずは、その抱負から
お願いします。

福山 日遊協理事と言えば、普通
の企業では業務を執行する執行役
員というような立場です。発言一
つにとつても責任感をもってやら
ないといけない、という思いは非

常に感じています。責任の重さに、
身の引き締まる思いです。

——理事就任のいきさつというの
は、どういうことだったのですか。

福山 ご承知のように、この6月、
九州支部から出ていた山田久雄副
会長が退任されました。後任は樋
口益次郎支部長が日遊協副会長に
就任され、樋口さんの後任理事と
して私が推薦を受けました。九州
支部支部長については、同時に推
薦を受けましたが、樋口支部長の
任期がまだ1年ありましたので、
そちらの方は来期からということ
にさせていただきました。来年から
は、九州支部の方でもがんばります。
「エッセー絵手紙」は
委員の心まとめた
有意義な企画だった

——広報というのは、いろいろな

団体、企業で行われ
ておりますが、それ

ぞれ難しい問題があります。特に
ここ数年は、業界としても微妙な
立場に立たされ、ご苦労も多かつ
たと思います。そうした中で「パ
チンコ・パチスロ エッセー・絵手
紙コンクール」がひとつの役割を
果たしたかと。パチンコファン
と業界を結ぶ心のきずなを、その
都度、再確認するような、ほのぼ
のとしたイベントでした。コンク
ールは4回担当されましたね。

福山 私は委員長として5年にな
りますが、広報調査委員会は最初
手探りの状態でしたから、何か具
体的な目標とか目的をもつという
意味で「エッセー絵手紙」は、委
員会のみなさんをひとつの方向に
まとめるという、大変意味のある
活動だったと思います。

ただ、その一方、東日本大震災
などがありました。それによって、

世の中の流れというものの、いろ
いろな変化が生まれました。それ
に対して、われわれ業界がどう向
かって行くのか、ということも問
われたと思います。その影響をう
け、コンクール自体も、一旦お休
みという形になりました。それは
ともかく、委員会のメンバーの中
にも、この間の活動には大きなや
りがいを感じられた、という意見
を述べられる方も多く、充実した
活動ができたと思います。

**基礎的な信頼を
得るために必要な
「業界データベース」**

——最近、広報調査委員会はホー
ムページで「遊技業界データベー
ス」を作って、掲載しています。
これは各方面から評価をされてい
ます。始めるいきさつというのは、
どういうことだったのですか。

福山 業界のデータについては、

ふくやま・ゆうじ

昭和38年生まれ。福岡県北九州市出
身。昭和60年(株)フェイスグループ入
社。平成3年取締役就任。平成21年
早稲田大学大学院情報生産システム研
究科修士課程修了。平成23年同社取
締役員副社長。平成22年日遊協広報調
査委員長、平成25年日遊協九州支部
副支部長。平成27年日遊協理事。

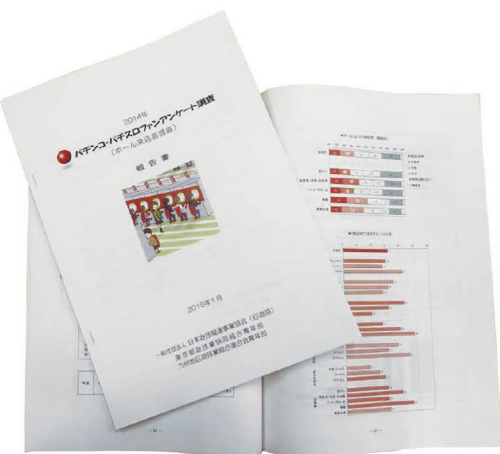
聞き手=「日遊協」編集部

一般の方も業界内部の方たちも知りたいことが、数値的なことも含めていろいろあるのではないかと考えて始めました。広報調査委員会と名乗る以上、「調査」ということもやらなければならぬのではないかとということも動機です。

——調査と言えば、「パチンコ・パチスロに関するファンアンケート調査」がありますね。これもその時その時でずいぶん変わってきたが、その結果は、いまでは業界のみならず各方面で利用されていますね。

福山 大変ありがたいことだと思います。——いまはどういう調査を。

福山 いま行っている調査は、パチンコ産業全体の就業人口などをまとめています。とにかく、パチンコ産業の場合、業界を説明する



広報調査委員会の作成した「ファンアンケート調査」

資料というものが少ない。例えば、学生を集めて就職説明会を開いていますが、学生の質間に正確なデータで説明できないことがままあります。こういう基礎的なところから信頼を得る努力というものも重要なのではないのでしょうか。そういう、業界の切実なニーズにこたえる意味でも、このデータベース作りは重要だと思います。

「業界用語」のQ&A 歴史を知る効果も

——「業界情報のまとめ」として用語の解説、再定義というのも始めているようですね。

福山 東日本大震災のときに、マスコミの方などにインタビュウを受ける機会が増えましたので、ひとつ業界として「Q&A」を作ろうというのが発端でした。そうなるかと、日遊協とはどういう組織なのかという説明に始まって、業界の中では日常的に使っている用語が一般の人たちには全くわからない状況があるので、これの定義をも一度見直すことも重要なのではないかと、この定義を

言葉の定義といふのは、なか

なか難しい作業ですよ。

福山 そうですね。ただ、言葉の意味をしっかりと知ることは、この業界の歴史をもう一度、勉強していくことになると思います。より深い知識を得るためには、こういふきっかけも必要なのだと思います。

——いま、どの辺まで進んでいるのですか。

福山 大体まとめられて、9月の理事会に諮っていいこうとしていきます。そこで文言の最終チェックをしていただいて、まずはホームページに出していくつもりです。

——業界用語の整理ができれば、それは便利ではないかと思えます。

福山 表現についても、いろいろ工夫は考えています。あまり文章が長くても理解されないだろうし、業界の歴史、遊技機、ホール営業、それぞれのジャンルに分けて解説を加え、使いやすい工夫も考えています。

現場の視点を知る 「メディア情報交換会」 目からうろこの話も

——広報調査委員会では、8月10日に「ファン雑誌・WEB情報交

換会」を開きました。これはどういう目的ですか。

福山 今後、広報としてメディアと関わっていく大きな意味を持っています。まだ一般のメディアとのつながりは持ちにくいので、まずは業界紙とかファン雑誌の編集者の方とお会いして、業界のイメージだとか、そういう情報をお聞きすることで、今後の広報に役立てられればいいなと思いました。まずは、業界の認識を共有しましょうという事です。

——やってみて、どうでしたか。

福山 のつけから「依存症の問題」というような固い話から始めたのですが、われわれとはずいぶん違う視点で考えられていることに、正直、驚かされました。例えば、依存症をなくすにはどうしたらいいかという話、われわれはすぐに射幸性の問題を考えますが、編集者の方からは、ファンはパチンコの方知識をもっとしっかり持つべきだ、というような発言がありました。

たしかに、目からうろこの話で、とかくパチンコに夢中になってしまふ人は、意外にパチンコを知らない。変な思い込みや観念にとらわれて、理性を失っている人もけ

っこう多い。正しい知識を得ることによって、そういう問題も解消するのではないかと、というわけです。われわれとしても、ファンがもっとしっかりした知識を得られるような方策を、合わせて考えていく必要があるのではないかと考えています。

——全てではないにしても、依存症問題にはそういう面はありますね。現場からものを考えていくというのは大切なことです。われわれはとかくそういう現場の視点を見失いがちです。

福山 ファン雑誌の編集者とかホール現場の人が、実は一番わかっているのかもしれない。大変有意義な会合でした。

大手一般紙への広告

依存問題を淡々と表現し評価される内容

——依存問題に話が及びましたが、依存問題などの広報というのは、やはり難しい面がありますね。依存問題には、業界のマイナス面の広報という側面があって、いろいろなところで思わぬ抵抗に合うというところもあります。この8月7日、「21世紀会」が健全化推進機構

の協力で、大手新聞2紙に掲載した新聞広告は「パチンコ・パチスロは適度に楽しむ遊びです」として、依存問題に取り組み業界の姿を訴えていました。

福山 広告の内容について、あまり違和感なく皆さんに受け入れられる内容だったのではないかと思います。われわれの業界では、どちらかというと各団体ともなんとか業界全体のイメージをアツプさせようという方向に向いていると思います。広報に期待されているところもそれだろうと思います。そういう中では、皆さんの期待とは逆の負の部分はどう事実に基づいて、淡々と発表するかという意味では、大変、評価できる内容だったと思いますね。

どう知ってもらおうか

業界の共通認識がまだ足りていない

——広報一般の課題でもあると思いますが、負の問題をどう取り上げ、なおかつ前向きな方向で伝え



広報調査委員会をリードする福山委員長（正面左）

て行けるのかというものは、大変難しいと思いますが、その辺りをどうお考えですか。

福山 広報調査委員会でも、最初のころよく議論になったのは、やはりこの業界のことを、どういうふうに一般の方に知っていただくかということでした。一般の方は、この業界に興味がないわけではないが、実際、「知らない」というのが率直なところなのではないかと思えます。われわれパチンコ業界が、何を、どういうふうにやっているのかということ、どうい

ふうに知っていただくか、という観点からいろいろと議論を重ねました。

——それもまた、大変なことですよ。実際、一般の方は、この業界のことを知らない。それは広報が不十分ということでもあるわけですが、こうした現実はどう取り組んでいったらいいとお考えでしょうか。
福山 それについては、業界のどの団体も同じ方向には向いていると思います。ただ、共通の認識というものについて、まだ議論している最中ではないかと思えます。それがまとまってない以上、やはり広報するというのは、なかなか難しいのではないかと思います。

ジレンマあるが

「広報」は見えにくい

主役はプロジェクト

——そういう意味では、この業界、団体でまとまってやるという広報活動が乏しい。個々の団体では、なかなか費用が賄いきれないところがあります。今度、日遊協に日工組と日電協が団体加盟して、その力で「PR事務局」を作る計画が持ち上がっていますね。広報調査委員会は、そうした活動に参加

していくおつもりですか。

福山 当然そういう機会があれば一緒に取り組んでいこうという話は常にしてきました。ここ5年間の広報調査委員会の活動の中で、いちばん出ていた意見というのは、業界としての窓口をひとつにしていただいで、広報の事務局を作っていたいただきたいということでした。PRする上では、やはり総合的な事務局の必要性は高いと思いますね。今度できる「PR事務局」が、日遊協の一部局というのではなく、業界全体のPR事務局になってほしい。

——広報というのは、一方で雲をつかむようなところがあつて、その目標、効果などを具体的に示すことが難しい面があり、なかなか理解されないところでもあります。**福山** おっしゃる通りです。日遊協の中で、いまいろいろなプロジェクトチームが動いている中で、広報というのは決して自らが表に出る仕事ではありません。それぞれのプロジェクトチームの仕事の成果を、いかに一般に効果的に伝えるかというのが役割ですから、目に見える形

になりにくいところがあります。広報調査委員会の中でもジレンマとして感じるころはありましたね。

厳しいホールの状況 機械への共通認識は 「高い」から「楽しい」へ

——いま、業界全体が厳しい経営環境にさらされています。福山さんは、実際のホール経営者でもあるわけですが、ホールの現状というのをどう考えられていますか。

福山 ホールの現状は、みなさん決しているとは思っていないと思います。個々の会社にもよりますが全体的にはいまの業界を取り巻く環境というのは相当厳しいものがあります。

——ひとくちに、顧客が年々減っていると言われていますが、根本のところ何が原因なのだろうと思

いますか。

福山 業界のみなさんもよく言っています。やはり最近の機械が、お金を使いすぎるのではないかという意見は多いと思います。日遊協でも重要な課題として挙げていますが、やはり「楽しめる遊技機」、ユーザーの方たちが本望んでいる遊技機とは、どんなものなのかということを、改めて考え直してみる。その原点に帰って出直してみなくては始まらないという認識は、業界共通のものなのではないかと思えます。

一方で遊技機は、たしかに射幸性が強まっていました。ホールにとっては利益という問題がありますが、射幸性が強すぎると思いつつ、歯止めがかからず顧客にそっぽを向かれる傾向が出てきました。この悪循環をなんとか断ち切らなくてはなりません。

都市集中の流れは やはり人口の問題 ウチは「地域一番」を

——福山さんの会社ではどうですか。本拠地の九州から関西、東京にも進出されたそうですね。業界では、店舗の都市集中が進んでい

ると言われていますが、そうした流れは感じておられますか。

福山 関西に2店舗を開きました。関西では、さすがに競合する店も多く、大変です。ただ、本拠地のある九州と比較すると、やはり都心は、それなりの人口がありますし、みなさん進出するならば、郊外よりも都心へという傾向はあるのではないのでしょうか。

——ホールの都市集中が、みなさんやむにやまれずということなのでしょう。

福山 都心はやはり人と情報が集まるところですから、できるなら都心に出ていきたいというのは共通なのでしょうけど、ただ、われわれの会社「フェイスグループ」だけのことを言いますと、現在17店舗を展開していますが、今後とも「出店するなら都心」ということではなくて、目指すのは、やはり「地域一番店」。その地域でお客様にいちばん支持される店を作ろうというのを目標にしています。

ユーザーの希望を 大切にした機械と 順調な世代交代を

——ホールの未来像について、う

協働事業に関する



6月の総会で新任の紹介を受ける福山理事(右)。中央は堀内文隆新専務理事、左は樋口益次郎新副会長

かがいます。ホールの未来について、どんなイメージをもっていらっしゃるのでしょうか。

福山 理事に就任した時も申し上げましたが、やはりこの業界を次世代にどう残していくのかということが、いま最も重要な課題だと思います。未来のイメージはその課題解決なくしてはありえません。ただ、現状は世代交代そのものがなかなか進んでいない。団体でも企業でもそうですが、これをどう進めて、新陳代謝を図っていくのが、当面の大きな課題ではないかと思っています。そこに私の役割があるかと思っています。――次世代に繋ぐといった場合、現状の射幸性のままというわけにはいかないと思います。そうしたことも含めて、パチンコの将来について、どういう展望をもっていきますか。

福山 パチンコに射幸性はある程度は必要だと思えます。ただ、「ファン雑誌・WEB情報交換会」でも雑誌社の方が話しておられたのですが、パチンコの仕組みをユーザーの方たちは、もっと知りたいというふうにも思っています。その上で、どういう機械を作りたいかという話を話して、「それよかったです。自分たちで遊技する機械を自分たちで作ってみたいと言います。その熱意には、心打たれるものがあります。こうした人たちと、いろいろな機会でも対話を進め、もっとユーザーの方たちの意見を取り入れた、ユーザーの気持ちを大切にしたい機械というものもできるのではないだろうか、と思います。実現することにはなかなか難しいかもしれませんが、そうしたところから見えるパチンコの未来というのがあるのではないか、と思います。

一般社団法人日本遊技



ECO遊技機の課題 「玉自体」の要素が 失われる恐れも

――未来の遊技機というところで、「ECO遊技機」という構想もありますが、期待感がありますか。

福山 これまでのパチンコの歴史の中で見ると、パチンコを遊技するというのは、やはりパチンコの玉からスタートしているのではないのでしょうか。ECO遊技機、封入式というのは、その根本から変えてしまおうという発想ですから、将来的にはそういうものも必要だという議論はわかりますが、従来通りのものもこのまま残して行って欲しいなと思います。

ECO遊技機になると、パチンコもスロットのように設定によって調整するようなイメージもあります。調整がいらなくなるという半面、思わぬ意外性というか、パチンコ遊技機が本来持っている楽しさが、失われてしまうのではないかと、懸念もあります。将来的にはそういう方向に向いているのではないかと思いますが、全部がそうになると、どうなのかなという気もします。

健全化へ「認識」のズレ 業界に携わる人間の 徹底的な議論が必要

――くぎの問題がにわかに脚光を浴びているという時にこそ、ECO遊技機が議論になっていいと思いましたが、あまり話題になっていないので、どうしたのかと思っていました。

福山 いや、着実に進んでいるはずですが。九州支部では、この7月31日に、業界紙のSEQUENCEの三浦健一さん、遊技通信の伊藤實啓さん、娯楽産業協会の鳥津幸弘さんの3人を呼んで「プレス懇談会」を開きました。そこには日遊協のメンバーだけではなく九州各県理事長を始め県遊協青年部のメンバーも参加して、総勢70人くらいで議論を行いました。そこではくぎの問題からECOパチの問題まで、いろんな議論がなされました。

――「プレス懇談会」ではほかにどんな議論がなされましたか。

福山 主調音としては各業界団体が現状認識を統一して、まずは、いま業界が置かれている状況というのを冷静に見ていくべきだという話が出ました。なかでも印象に

残ったのは戦後70年を経過して、業界に携わる人の間に、健全化への「認識のズレ」が生まれているのではないかと。これを是正していくためには、もっと話し合いを持たなければならぬということでした。たしかに、これは業界全体を巻き込んだ徹底的な議論が必要です。

寿命が短いだけに 率直に言って機械は 安くしてほしい

——現在、メーカーとホールとの関係というところでは、どうなのでしょう。やはり、かなりメーカー優位ということなのでしょうか。

福山 メーカーとホール、どっちが強いかというようなことは、双方一概に言えるものではないと思います。いい機械を出せば、それは当然そのメーカーは強くなります。むしろメーカーとホールとの関係というところでよく話に出るのが、やはり機械代を安くしてほしいというホールの率直な感想ですね。

——1台40万円近い、というのは確かに高いという感じですね。

福山 機械の寿命も非常に短くな

業界の明日の希望を託して明るい福山理事



っています。大体3か月持てばいい方です。短いものでは1か月も持たないものもありますね。そうすると償却期間を待たずに、撤去される機械が多くなっています。

タレントやアニメを うまく活用するのは 方法として有効だと

——それは、厳しいですね。最近の機械は、人気タレントや有名コンテンツを導入した、豪華な造りの機械も増えていますが、こういう時代ですから、もっとシンプルにしていいのではないかとという声もありますね。パチンコと芸能タレントは、本来別モノではないのですか。

福山 ただ、先の「ファン雑誌情

報交換会」でも話題になっていましたが、パチンコをしなくても、人気アニメの声優やタレントが来るのなら、そのイベントには参加するという人も、非常に多い、ということはあります。そういうマニアの方たちが、それをきっかけにパチンコを知るといふこともあってもいいのかなと思います。

——なるほど…。

福山 いまホールは、いろんな広告規制がありますから、そうしたイベントはなかなかできません。日遊協のような団体で、広く一般の方にパチンコを知っていただくという中で、こうしたイベントなどを利用していただくというのはどうかと思っています。日遊協、回胴遊商で開催している「パチスロの日」のように広報・PR活動として、やっていくことには、問題ないのではないかと思います。最近ではパチンコばかりではなく、パチスロファン雑誌のライターを身近なアイドルとしてイベントを行い、集客につなげていくという

ような動きもあるようです。とくに女性のライターなどは、若年層に人気を呼んでいるみたいですね。

業界全体がようやく 「議論を始めてる」と 感じています

——最後に、業界について、何かご意見はございますか。

福山 いま「パチンコ・パチスロ産業21世紀会」は14団体が参加して構成し、なかでも6団体は遊技産業活性化委員会を組織してリーダーシップをとってやっています。こういう形でみなさん危機感をもって動き始めています。業界全体が、その目的だとか、目標だとか、ようやく「議論し始めたな」という感じは持っています。まだ着地点は見えてはいませんが、議論を交わし始めた。日工組、日電協の日遊協団体加盟が、その大きなきっかけです。これによって業界自体が変わって来つつあるな、と感じています。これは大変いい傾向なのではないでしょうか。希望がようやく見えてきたという感じですね。

——本日はありがとうございます。これから頑張ってください。